

平成 30 年度第 1 回多職種連携研修会を開催しました。

この多職種連携研修会は、2025年に団塊の世代がすべて後期高齢者になり、一方で社会の担い手となる若年者が減少するという超高齢社会に対応する必要があることから、医療・介護に不可欠な専門的人材が参加し、事例検討などのグループワークを通じて、互いに顔が見える関係となり、多職種連携によって現場対応力を向上して利用者の安心につなげるため、大川三潁医師会・大川三潁地区多職種連携協議会の主催で毎年開催しているものです。

この取り組みは平成25年度から始まり、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員（ケアマネジャー）、リハビリ専門職、介護事業者、老人クラブや民生委員代表者、地域包括支援センター職員など毎回100名前後が参加しています。

9月28日（金）に、平成30年度第1回研修会が大川三潁医師会館にて開催されました。

この日は、まず「大木町における認知症初期集中支援チームの活動について」と題して、大木町地域包括支援センターより講演が行われました。

続いて、いちのせファミリークリニックの一ノ瀬医師の進行のもと、モデル事例を用いたグループワークを行いました。



末期のがん患者の在宅生活を、各専門職種の特長を活かして、地域でどう支えていくかについて活発な議論が行われました。

この日初めて参加した老人クラブや民生委員代表者からは「難しい問題だが、地域組織でも出来ることは色々あるのではないか」、各職種の参加者からも「ほかの職種の意見が聞けて良かった」との感想を多数聞くことができました。

大川市としても、大川三潁医師会と協力して多職種連携の取り組みを今後とも推進してまいります。